自動給餌ロボット（中央）などを導入し、新たな挑戦を続けるオーシャンリンクの阿部さん、白木さん、山森さん（左から）

## 大規模化に活路

「１人で取り組んでいたときは将来への不安を抱えていたが、今は違う。安心感がある」。今年３月、大樹町生花・晩成地区の若手酪農家３人が手を結び、新たな農事組合法人が誕生した。その名も「オーシャンリンク」。眼下に太平洋が広がる晩成の牧場で、阿部克志さん（40）と白木耕二さん（34）、山森康隆さん（29）の挑戦が始まった。

それから７カ月。阿部さんは家族酪農から大規模酪農へのシフトチェンジで、心にゆとりを持てるようになった。これまで１人で行っていた作業を、分担できるようになったからだ。

同法人では、阿部さんが代表理事兼機械・設備責任者、白木さんが管理統括部長兼内部責任者、山森さんが牛群・装置管理統括部長兼現場責任者を務める。従来は牛舎の管理、畑の育成、搾乳を同時に進めなくてはならなかったが、「今は一人ひとりが１つの仕事に専念できる」。

法人設立前の阿部さんは生花地区で120～130頭（うち搾乳牛65頭）を飼養管理していた。父の後を継いだ2004年以降、搾乳以外は全て１人でこなした。労働力不足で家族の負担も大きかった。

しかも、先代から受け継いだ施設は老朽化が目立っていた。食べていくためには億単位の設備投資が必要だが、既存の負債もあって到底踏み込めない。「文字通り、八方ふさがり。10年後も今の経営規模を維持するのは難しい。違う道（大規模酪農）を模索するしかなかった」と振り返る。

隣接する酪農後継者として同じ悩みを抱えていた３人は、意気投合。「次代を担う若者が安心して酪農に従事できるよう、魅力ある経営環境を整えよう」。周囲の先輩酪農家の理解と地元ＪＡ、行政の支援で、同法人を立ち上げた。現在は３人合わせて以前の計510頭から倍に増え、約1100頭（うち搾乳牛約590頭）と暮らしている。

**ホクレン支所別 2013年度 生乳受託量**

| 支所（地区） | 生乳受託量（トン） | 前年度比(%) |
|---|---|---|
| **帯広（十勝）** | **107万6239** | **100** |
| 中標津 | 79万1020 | 96.6 |
| 北見 | 56万1852 | 98.9 |
| 釧路 | 52万7859 | 97.9 |
| 稚内 | 28万2988 | 98.6 |
| 旭川 | 17万2078 | 97.7 |
| 留萌 | 11万1637 | 96.3 |
| 苫小牧 | 8万7440 | 96.9 |
| 函館 | 7万8452 | 97.2 |
| 倶知安 | 2万3316 | 96.5 |
| 岩見沢 | 2万3157 | 94.9 |
| 札幌 | 2万2808 | 97.2 |
| 合計 | 375万8845 | 98.3 |

ただ、町市街地から約20キロ離れていることもあり、従業員の確保は道半ば。そこで、省力化に向けた“秘密兵器”として自動給餌ロボットと餌寄せロボットを導入した。あらかじめ１日の必要量を入れて時間を設定すれば、ロボットが牛舎内を動き回り、牛に餌を与えてくれる。牛舎管理の手間が省け、空いた１～２時間は別の仕事ができる。

「１人ではできなかったことが、３人になったことでできている。これは大きな変化。10代、20代が夢を抱いて酪農現場で働けるようになるはず」

同法人のように、将来の不安を払拭（ふっしょく）しようとする大規模化は現在、十勝の酪農を取り巻く大きな流れの１つになっている。ただ、一方で大規模化は近年、多額の投資や労働力などの面で課題も出始めている。

## 求人難　増大するコスト

十勝の大型酪農法人でつくる十勝酪農法人会（湯浅佳春会長、33戸）は今年２、３月、生産者自らホクレン、乳業メーカーに乳価10円の値上げを要望し、窮状を訴える行動に出た。これまでホクレンに任せてきたメーカーとの交渉に、生産者が関わろうとする新たな試みだ。

湯浅会長は「このまま酪農の経営状況が厳しければ離農が止まらない。ホクレンから離脱するメガファームも、さらに出るかもしれない。生産者のために動いてくれないなら、（生乳を一元集荷するホクレンのような）指定生産者団体も道内に２つ、３つあってもいいとの議論になってくる」と危機感を募らせる。

４月に決まった交渉の結果は、平均３円９銭（消費税８％換算で５円47銭）の値上げ。ホクレンの板東寛之常務は「酪農家から、満足はできないが、少しは力が出たという声も聞く」と話す。その上で、10円要望の背景として、景気回復や少子高齢化で雇用を確保できず、「大型酪農のビジネスモデルが転機を迎えている。コストが安くなるはずが、人手不足などによるコスト競争で遅れを取り始めてしまった」と課題を指摘する。

道内最大規模の乳牛約2300頭を飼養するドリームヒル（上士幌町）の小椋幸男社長（63）も「昨年から求人を出しても急に人が来なくなった。ずっと拡大路線を続けてきて苦しいのは現実」と認める。

ただ、「もし法人化しなければ（年間乳量全道１位の）